

## 中国人日本語学習者が間違えやすい表現について

王 国 華 \*

### A Study on the Expressions in which Chinese Learners of Japanese Frequently Make Mistakes

Wang GuoHua \*

*Received October 28, 2003*

#### 1. はじめに

中国語を母国語とする日本語学習者の数は年々増え続けている。日本語と中国語とはほぼ同じ漢字を用い、発音は異なっても、同じ単語を共通の意味で用いる場合が多くあることから、中国人の多くは日本語に親近感があり、日本語は難しくないと思込んでいる。毎年中国国内で行われている教師、医者、技術者などを対象とする職位認定の外国語試験で、外国語のできない人が日本語の試験を受け、そして、見事に合格する話をよく耳にする。また、日本語学習者が増えているが、しかし、初級クラスに入る人は多いものの、中級や高級に進級できる人は少ない。日本語のできる人は多いが、日本語に精通する人は少ないのがその現状なのである。大学の日本語科でも、日本語を甘くみているということで、いろいろな問題が生じている。

本稿では、中国人が間違えやすい日本語から特に名詞、形容詞、動詞を取り上げ、その原因について考えてみることにした。

素材としたのは、主に筆者が勤めている大連外国語学院日本語養成班中級、高級クラスと、日本語科の二、三年生の学生の精読、会話の学習過程で書いたり、話したりしたものである。

これらの誤用例を調べ、その原因を考えることにより、今後の日本語教育に役立てていこうとするものである。また、学生たちの誤りを理解する過程で誤用の原因を正しく理解することによって、学生たちが同じ間違いを繰り返さないように指導していきたいと考えている。

まず、本稿で、取り上げた名詞に関する誤用例であるが、日本語も中国語も漢字を用い、学生たちは漢字を日本語だと思込意識が弱いため、中国語の漢字を日本語として使用するという間違いを犯しやすい。ここで取り上げた漢字の間違いは、会話の時間に間違えて話したり、短文を作ったりした際に多く見られたものである。

次に、形容詞であるが、本稿では、中国語では日本語と同じように「形容詞+名詞」の語順で連体修飾することができるが、また、仲介役の「的」<sup>(註1)</sup>を使わなければ言いにくいことか

---

\* 外国語学部  
Faculty of Foreign Languages

ら生じた誤用例, 「～と思う」や「～と考える」の前に置かれた形容詞に「だ」を付けたために間違った例, 形容詞の連体形に「な」を付けた誤用例, 形容詞の過去形に関する誤用例, 「細い」, 「細かい」, 「かわいい」, 「わかい」など漢字が同じであったり, 音が似ていたりすることによって生ずる誤用例などをあげ, 若干の説明を加えた。

最後に, 動詞に関する誤用例をあげたが, 目的格「を」を必要とする他動詞を用いるべきところに自動詞を用いた誤用例, 時制を間違えた例, 動詞語尾活用の表記に生ずる誤用例, 「知る」と「分かる」, 「住む」と「泊まる」, 「見る」と「会う」などのように中国語では一語で表わせるために日本語の単語を区別するのが難しいことが原因となって生じた誤用例について触れた。つぎに, その一つ一つについて具体的にみていくことにする。

## 2. 名詞

日本語も中国語も漢字を用いる言語であり, (地理, 計算, 速度, 音楽) のようにまったく同じ単語を用いる場合もあるが, ここでは, 中国語で日常的に用いられている単語であるために, それがそのまま日本語であると思うことにより生じた誤用例をあげていくことにする。

1) (誤) あの先生の出身は美国ですか。

(正) あの先生の出身は米国ですか。

中国語では, 米国, アメリカを美国 (メグ) と言うところからこのような誤用が生じた。

2) (誤) あなたの生日はいつですか。

(正) あなたの誕生日はいつですか。

中国語では, 日本語の「誕生日」にあたる語は「生日」である。

3) (誤) お花では, どんな顔色が好きですか。

(正) お花では, どんな色が好きですか。

中国語では, 赤, 黄, 青, 緑, 紫などの色を表わす場合に使う語は「顔色」であるが, 日本語の「色」を意味するのに生じた誤用例である。

4) (誤) 彼にはプロレタリアとしての覚悟がある。

(正) 彼にはプロレタリアとしての自覚がある。

中国語で「めざめる」, 「自己の立場を認識する」という意味を表わす時には, 普通「覚悟」という語を用いる。

5) (誤) 風邪ですか, 病院へ看病に行った方がいいですよ。

(正) 風邪ですか, 医者に診てもらった方がいいですよ。

中国語では, 医者に診てもらう, あるいは診察を受ける意味を表わす場合「看病」という語で表わす。

6) (誤) この件については、ここにいる人だけが知っていればいい、外人に言う必要はない。

(正) この件については、ここにいる人だけが知っていればいい、外部者に言う必要はない。

中国語で言う「外人」は、ある組織、範囲に対しての外人のことを指すが、学生たちは日本語のような「一カ国に対しての外人」という認識がないから生じた誤用例である。

7) (誤) 自分の過ちを深く検討すべきだ。

(正) 自分の過ちを深く反省すべきだ。

中国語では、本人あるいは部門の思想上、工作上、生活上の欠点と過ちを検査し、深く反省する意で、よく「検討」という語を用いる。

8) (誤) 車で石頭を運んでいく。

(正) 車で石を運んでいく。

中国語の「石頭」は、日本語の「石」を意味する。

9) (誤) 私は毎日汽車で、学校に通っている。

(正) 私は毎日バス(車)で、学校に通っている。

中国では、三つ以上の車輪を持ち、エンジンに動力でレールなしに走る車、つまり三輪車、乗用車、バス、ジープ、トラックなどの自動車のことを「汽車」と言う。これは中国人日本語学習者がよく間違えやすい例の一つである。

10) (誤) 今回の試合に負けたのは、全部怪我だ。

(正) 今回の試合に負けたのは、全部私の責任だ。

日本へ見学に来た中国人が、「油断一秒、怪我一生」と言うスローガンを見て、これを「油が一秒切れたために、自分を一生責める」と解釈して、「日本人はなんて責任感の強い民族だろう」と感心した話は、よく日本語と中国語の対照研究の例としてあげられている。<sup>(註2)</sup>つまり、中国語の「怪我」は、話者自分が自分を咎める意味にしか使えないと思うから生じた誤用例だと言える。

以上10例を取り上げてみたが、実際にはこの他にも多くの間違いがあった。ここで問題にした例は、誤用例の中でも、比較的頻繁に見られたもので、中国語としては一般的に用いられるが、日本語としては間違いであると言うものを選択した。

### 3. 形容詞

1) (誤) 私たちは、毎日広いの教室で勉強している。

(正) 私たちは、毎日広い教室で勉強している。

中国語の形容詞は、日本語の形容詞と同じように「形容詞+名詞」の語順で、直接に連体修飾をつくることができる。但し、日本語では常識的な組み合わせさえあれば、形容詞は割合

に自由に名詞を修飾することができるのに対して、中国語ではそのままでは仲介役「的 d e」を使わなければ言いにくいことがよくあるため、学生たちは日本語においても同様な用い方をして、間違えた例である。

- 車が狭いの道を走っている。
- 浅野川は美しいの川だ。
- 金沢は北陸地方にある大きいの町だ。

2) (誤) 日本語は敬語の使い方が一番難しいだと思います。

(正) 日本語は敬語の使い方が一番難しいと思います。

この例は、形容動詞の場合に「丈夫だと思う」と言うように「だ」を用いるので、形容詞の場合にも間違えて「～だ」とした例であるといえよう。

- 日本語より中国語が易しいだと思う。
- 日本で富士山が一番高いだと思う。
- 野菜は体に一番いいだと思う。

3) (誤) 日本語の難しいな点は助詞だ。

(正) 日本語の難しい点は助詞だ。

これは「静かな」、「きれいな」のような形容動詞の連体形の語尾「な」を形容詞に間違えて付けた例であろう。この「な」は、形容詞ばかりでなく、次の例のように、連体詞にも間違えて用いることがある。

- (誤) 私は、中山さんと同じなクラスだ。
- (正) 私は、中山さんと同じクラスだ。

4) (誤) 日本語の学習は、初めは易しいでした。

(正) 日本語の学習は、初めは易しかったです。

形容詞の過去形は「良かったです」、「易しかったです」のように、用い方が自然で抵抗がない。文化庁『ことばシリーズ7.ことばに関する問題集3』<sup>(註3)</sup>には、「形容詞に〔です〕を直結させる言い方は、今日では、もはや誤用とは言えない事情である。」と言う記述もあるが、過去形を表わす場合には、やはり「[おもしろいでした]、[大きいでした]、[ないでした]」と言うより「[おもしろかったです]、[大きかったです]、[なかったです]」または、「[ありませんでした]」という方が抵抗が少ないと思われる」とある。ここでは、誤用例とは言えないとしても、不自然な例としてあげておくことにする。

- 昨日のドラマは本当に素晴らしいでした。
- 中日文化交流の歴史がとても長いでした。
- 昨日はそんなに暑くないでした。
- 去年の冬はあまり寒くないでした。

5) (誤) アメリカの映画は、あまり面白いではありません。

(正) アメリカの映画は、あまり面白くないです。

この例は、名詞、形容動詞否定の場合に「学生ではありません」、「静かではありません」を用いるので、形容詞の場合にもよく間違えて「～ではありません」とした例であると言える。

- 日本の電気製品は高いではありません。
- 日本語はそれほど難しいではありません。
- この間のハイキングは楽しいではありませんでした。

6) (誤) この辞書の文字は細くて見えない。

(正) この辞書の文字は細かくて見えない。

「細かい」も「細い」も、ともに形容詞であるが、「こまかい」の反対語は「粗い」であり、一つ一つが、極小さいことであり、「細い」は「太い」の反対語であり、たけの割に、まわりの長さや幅が乏しいことを言う。中国語の中にも、「細い」、「細かい」の区別はあるから、これは、同じ漢字を使用することにより生じた誤用例であると言える。

7) (誤) 着物を着ている日本の女性が美しいで、驚いた。

(正) 着物を着ている日本の女性が美しくて、驚いた。

これは日本語の形容詞の連用形と助詞「で」の使い方が、理解していないために間違えて用いた例である。

8) (誤) 日本語は私にとってはやすいです。

(正) 日本語は私にとってはやさしいです。

「やさしい」も「やすい」も形容詞であるが、「やさしい」と「やすい」の発音が似ていることや「～しやすい」の「やすい」との混同が原因であろう。

- 日本語は英語より少しやすいです。
- 日本語は中国人にとって、やすい外国語です。
- 林先生はとてもやすい方です。

9) (誤) お家の赤ちゃんは本当にわかいですね。

(正) お家の赤ちゃんは本当にかわいいですね。

中国語でも「わかい」と「かわいい」とは別の単語を用いるから、母国語の影響を受けた誤用例であるとは考えにくい。やはり、「わかい」と「かわいい」の音が似ていることが原因であろう。

- あなたたちの先生は、年寄りですか。かわいいですか。
- ほら、あの人形わかいですね。

#### 4. 動詞

1) (誤) 生まれてから高校まで、おばあさんは、私を育ちました。

(正) 生まれてから高校まで、おばあさんは、私を育てました。

これは目的格「を」を必要とする他動詞のところに自動詞を使った誤用例である。日本語の

自動詞、他動詞の区別がしっかりできていないのが原因であろう。

- 先月、彼らには男の子を生まれました。
- 早速ですが、今日のクラス会議を始まりましょう。
- 私の趣味は、切手を集まることです。
- 早く寝て体を休みましょう。

2) (誤) 昨日読む本は面白かったです。

(正) 昨日読んだ本は面白かったです。

これは、中国語には、動詞語尾活用によって、時制を表わす表現はないことから生じた誤用例だと言える。

- 先生に会えば、よろしく伝えてください。
- 日本人はご飯を食べるとき「ごちそうさまでした」といます。
- 家に帰れば、すぐ友達に電話を掛けた。
- 辞書を引くのに分らなかったです。

3) (誤) 昨日、私は図書館から本を借りてきました。

(正) 昨日、私は図書館から本を借りてきました。

これは、促音にする必要がないところを促音した例である。これとは反対に、促音すべきところが促音していない場合などいわゆる動詞活用の間違いから生じた例である。

- 彼は卒業してから、一人で、東京へ行た。
- すべては自分の力で実現しねばならないことだ。
- 吹ってきたやわらかい風。
- 遠いところへ泳んでいった彼。
- 私が見た時には、彼女はそこにいた。

4) (誤) 私は日本語で歌を歌いことができます。

(正) 私は日本語で歌を歌うことができます。

これは、「歌う」という動詞の終止形を正しく理解していないために生じた誤用例である。

- そのときの気持ちは言葉では言い表しできなかった。
- いくら解釈しても、先生は私たちの気持ちを理解できなかった。

5) (誤) 東京は人口密度がロンドンについて世界で第二位であるということを日本へ来る前に、分かっていました。

(正) 東京は人口密度がロンドンについて世界で第二位であるということを日本へ来る前に、知っていました。

これは「知る」という動詞を用いるべきところに「分る」を用いた誤用例である。

「知る」と「分る」は類義語で、「人間の精神活動によって認識する」という点で共通しているが、「知る」が「頭脳の中に無かったことに気づき、知識として、とらえる」ことであるのに対して、「分る」は「とらえた事実を正しく理解する。」という違いがあると言える。中国

語では「知る」も「分る」も一語で表わせるところから、このような間違いが生じたものだと考えられる。

- 赤いスカーフを見ただけで、彼女であることが知られる。
- 苦しみを経験しなければ、喜びが知らないとよくいわれる。
- 傘を持っていかないの？雨に降られたら、分らないよ。
- 彼女にあって、友情というものを分かった。

6) (誤) ここに十数日住んでいるうちにやっと病気が治った。

(正) ここに十数日泊まっているうちにやっと病気が治った。

中国語では、「住む」と「とまる」を一語で表わすために生じた誤用例である。ところが、日本語の「住む」は「人が集まった場所で暮らす。」とあるように、一定の場所に本拠を構えて、相当長い期間暮らすことである。会議に出たり、旅行したりして、三日や四日、あるいは十日や二十日、どこかで日を送ることは「住む」とは言わない。こういう場合には「泊まる」のようにいうのである。

- 台風で、飛行機が欠航となって、空港のホテルに一晩住んだ。
- ずっと前から私は大連に泊まっている。
- 子供の時、肺炎で十日間ぐらい病院に住んだことがある。

7) (誤) 途中、彼女を見たので、この事を話した。

(正) 途中、彼女に会ったので、この事を話した。

これは、中国語を直訳することによって、よく生じた誤用例である。日本語の「彼女を見た」という場合には、彼女にも声をかけず、話もしなかったということになる。上例のように話をしている場合には、話をしなくても。お互いにならずきあったりして、確認しあっている場合には「会った」という言い方をしなければならないのである。

- 十年ほど前、私は彼に一回会ったきり、それ以後、彼を見たことはない。
- 明日、暇があれば、中村さんを見に行きたい。
- ご主人を見たら、よろしく。

8) (誤) 私は自習の時間に、先生の出された宿題を作りたいと思う。

(正) 私は自習の時間に、先生の出された宿題をやりたいと思う。

これは、中国語と日本語が同じ漢字の動詞を使うことから生じた誤用例である。中国語の「作」と日本語の「作る」は、同じ漢字を用いても、その内容がかなり違うものである。日本語での「宿題を作る」は、先生が学生のために「宿題としての問題を制作する」という意味になる。先生の出した宿題について、その答えを考えたり、書いたりするのは、中国語では「作」を用いるが、日本語では、「宿題を作る」とは思わず「宿題をする」、「宿題をやる」というべきである。

## 5. おわりに

中国人学習者が日本語を学習し始めた時、殆どの学習者が易しいという感じをもつ。その理由の一つは中国語と日本語が同じ漢字文化圏であることにあり、すこし学習を重ねると、やはり日本語は外国語であり、難しいという実感を持つのである。

両言語は、一言同じ漢字文化圏といっても、日本語としての意味と中国語としての意味の単語が同じ場合も多いけれども、中には意味のずれているものもあり、全く異なる意味のものもあって、また、中国語に存在しないものもある。中国語にないものなら、これは中国語と違うという意識があるから、かえってそういうタイプの単語は教師、学生両方とも無視しない。問題になるのは、意味のずれているものと、意味の全く違うものである。教師は、こういう単語の意味や使い方を学生に分らせる工夫が足りないのである。学生側としても、その使い方など辞書で調べようとしめない。初級の段階では、ときどき、中国語の意味でそれを理解してしまうため、「薬を食べる（飲む）」、「小説を見る（読む）」、「電話を打つ（かける、する）」、「夢を作る（見る）」、「靴を着る（穿く）」のような誤った例が、会話などの授業によくでる。だから、教師としては、授業で、そういう単語に対して、例文を取り上げ、そこで何故、どこで間違っているかを中国語の意味と対照しながら、詳しく分析する必要もでてくる。

筆者は、長年日本語教育に携わっているが、その間の教育を通して、強く感じることは、学生たちの間違える点が語彙であろうと文法であろうといつも同じであるということである。もっとも正確に言うと、間違えやすい点がきまっているということである。

これらの誤用例を体系的に整理して、学生たちにその理由と共に説明していれば、学習の能率は必ず上がると思われる。

ここで述べた誤用例は、いわば誤用例のごく基本的なものであり、学生たちが日常的に間違えやすいものばかりである。したがって、誤用例の数もあまり多くなく、特殊な例も少ない。しかし、実際には、学生たちの作文やレポート、会話の中に数多くの誤用例があり、今後整理すべき問題は山積みされている状態である。機会があれば、中国人日本語学習者の間違えやすい類義語や待遇表現などの問題について調べて行こうと考えている。

### 註

- 1) 守屋宏則 中国語文法の基礎 45～47頁 東方書店 1995.2
- 2) 金若静著 同じ漢字でも 80頁 学生社 1987.1
- 3) 文化庁 「ことば」シリーズ7 言葉に関する問題集 59頁 1977.3